

1 金融機関の役割

Q1

経済社会において、金融機関が果たしている最も基本的な役割は何ですか。

A

●金融仲介機能と資金決済機能

経済社会では個人や法人等が、日々さまざまな投資活動を行っています。たとえば、不動産会社がマンションを建設したり、工場が新しい機械を設置したり、農家がトラクターなどの農業機械を購入したり、商店が売れそうな商品の在庫を増やしたり、家庭では家をリフォームしたりと、これらはみな「投資」と呼ばれる経済活動です。そして、これらの投資を行うためには、それに見合う資金が必要になります。

一方、資金には余裕があるけれども、当面は特段の投資プランを持っておらず、資金を寝かせている個人や法人等も存在します。そこで、有意義な投資プランがあって資金を必要とする経済主体と、自らは投資プランを持っておらず資金を寝かせている経済主体をうまく結びつけることができれば、両者とも満足でき、経済全体の効率性も高まります。

金融機関は、このように資金が不足している経済主体（投資を行うための資金が不足している経済主体：**資金不足主体**）と、資金余剰の状態にある経済主体（投資プランを持っておらず資金を寝かせている経済主体：**資金余剰主体**）の間に立ち、前者には融資等の形で資金を提供し、後者には金融商品という形で投資機会を提供するという、**金融仲介機能**を担っています。



この点に関して、金融の円滑化は金融機関の社会的使命である、という議論がしばしばなされています。これは、金融機関が中小企業者等への貸出に、より積極的に取り組むべきだとする議論です。金融仲介機能は金融機関の基本的役割ですが、あえて金融の円滑化がいわれるのは、なぜでしょうか。

経済情勢が悪化すると、中小企業者等は資金繰りが苦しくなり、企業倒産等が増加する一方、金融機関は融資に消極的になる可能性があります。また、金融機関に対する自己資本比率規制等が近年強化される傾向にあるなか、貸出資産等の増加は自己資本比率の低下要因になるという事情もあるためです。預金者保護の観点からは、金融機関のリスク回避行動や自己資本比率の向上は維持・確保されなければなりません。中小企業者等への資金供給という使命と、経営の健全性との調和をしっかりと図っていくことが重要です。

金融機関が果たしているもう一つの重要な役割として、**資金決済機能**があります。私たちがモノやサービスの購入などの経済取引を行うと、多くの場合、金銭の支払い、つまり資金決済をすることになります。そのもっとも基本的な方法は現金の受渡しですが、現代経済社会では、手形、小切手、振込、口座振替、クレジットカードなど、預金口座を利用した決済が広く行われています。

もし直接的に現金を授受する決済方法しか存在しなければ、紙幣・硬貨の勘定や現金の確保が煩わしいばかりでなく、遠方まで現金を持参するために多大な時間や費用がかかり、円滑な経済取引が阻害されてしまいます。金融機関は、インターバンクのネットワークを活用して現金だけでなく多様な決済方法の信用を支え、資金の受渡しを効率的かつ安全に媒介するサービスを提供しているのです。